

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：15401

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K21774

研究課題名（和文）ポートフォリオ評価を用いた教職の高度化と教師教育者の養成に関する開発的研究

研究課題名（英文）Research on the Development of Teaching Profession and Training the Teacher Educator focusing on the Functions of Portfolio Evaluation

研究代表者

吉田 成章 (Yoshida, Nariakira)

広島大学・人間社会科学研究科（教）・准教授

研究者番号：70514313

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、「高校教職ポートフォリオ」の取組によって、教科と総合とのカリキュラム接続および高大接続カリキュラムの提供によって、教職の高度化に資することを明らかにした。また、大学の「教職ポートフォリオ」に関する取組によって、自身の「教育観」の形成と刷新を意識したポートフォリオの蓄積とその省察によって、教職の高度化に資することを明らかにした。その上で、大学院の「教職教育ポートフォリオ」に関する取組によって、自身の「教育観」を意識したプラクティカムの省察と個人個人の教育学研究の課題・テーマと連動させたポートフォリオの作成が、教職の高度化に資することを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「高校教職ポートフォリオ」「教職ポートフォリオ」「教職教育ポートフォリオ」という三つのポートフォリオを軸とした教職高度化の開発実践研究の取組の成果を踏まえて、学会発表・論文執筆・著書刊行へと本研究の成果を学術的に発信することができた点に本研究の学術的・社会的意義がある。高校・大学・大学院を通じた教職の高度化をポートフォリオを軸に開発的に取り組むという萌芽的な本研究は、より分野・領域・段階を拡大させた教職の高度化あるいは専門職養成の取組として研究発展させていく可能性と展望を提起するものである。

研究成果の概要（英文）：In this study, we found that the "high school teaching portfolio" initiative contributes to the advancement of teaching by connecting the curriculum between subjects and integrated curriculum and by providing a curriculum that connects high school and university. In addition, we found that the university's "teaching portfolio" initiative contributes to the advancement of the teaching profession through the accumulation and reflection of portfolios that are aware of the formation and renewal of one's own "philosophy of teaching". In addition, through the efforts of the graduate school's "teaching portfolio," it was clarified that reflection on the practicum with an awareness of one's own "philosophy of teaching" and the creation of portfolios linked to the issues and themes of individual pedagogical research contribute to the advancement of the teaching profession.

研究分野：教育方法学

キーワード：ポートフォリオ 教職の高度化 高校教職ポートフォリオ 教職ポートフォリオ 教職教育ポートフォリオ 教員養成スタンダード

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

高校教育改革・教員養成改革・教師教育改革・教師教育者の養成の可能性の模索は、各種の政策動向および関連する教育学・教師教育学分野での学術研究が進められつつある状況を背景として、総合大学におけるポートフォリオ評価による教職の高度化、教師教育者の養成の開発実践、資質・能力(コンピテンシー)ベースの教育改革と教員養成改革に取り組んできた研究代表者と研究分担者らとの共同研究背景から、本共同研究に着手することとなった。

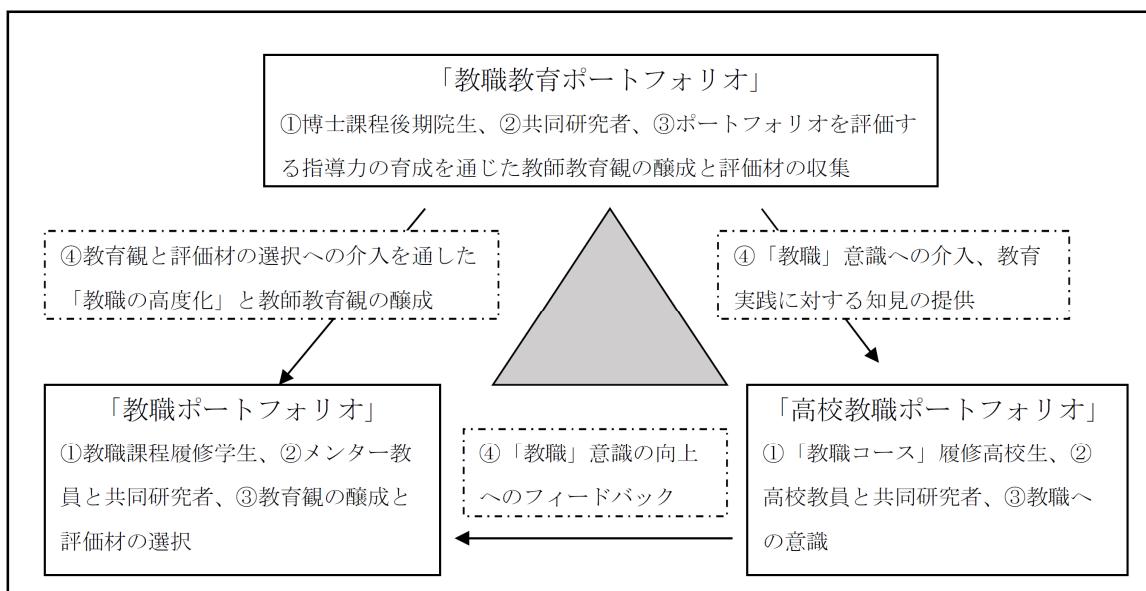
2. 研究の目的

本研究の目的は、ポートフォリオ評価を用いた「教職の高度化」と「教師教育者」の養成のあり方を、高校および大学・大学院との共同実践を通して開発的に明らかにすることにある。教職実践演習の導入によって教職課程を履修する学生のポートフォリオ評価の研究・実践が進む一方で、教職課程学生のポートフォリオ評価を指導することで「教職の高度化」を担う存在たる「教師教育者」の養成のあり方の重要性が自覚されるようになってきた。しかしながら、ポートフォリオを用いた反省的实践家としての教員の養成を担う教師教育者＝大学院生の反省的实践のためのポートフォリオ評価の研究と実践は、既存の研究者養成に特化した大学院体制のもとで進展してきたとはいえない。そのため本研究では、(1)「教職の高度化」のためのポートフォリオ評価の位置づけの拡大と深化に着手し、(2)博士課程後期院生が教職課程学生のポートフォリオ作成過程へ関与する体制を開発し、(3)教師教育者となる博士課程後期院生に対するポートフォリオ評価の開発実践に取り組むこととした。

3. 研究の方法

本研究ではポートフォリオ評価を三段階の重層的な構想の下に遂行した。すなわち、教師教育者の養成のターゲットとなる博士課程後期院生のポートフォリオとしての「教職教育ポートフォリオ」、広島大学における教職課程履修学生を対象とした「教職ポートフォリオ」、さらに教職コースを設置する高等学校の生徒が作成する「高校教職ポートフォリオ」である。

これら三つのポートフォリオ評価の作成者()、評価者()、ポートフォリオ評価の目的と評価する際に重視する点()、博士課程後期院生によるそれぞれのポートフォリオ指導への介入実践()をまとめたものが以下の図である。



この三角形で表されるポートフォリオ評価の重層的取り組みを、3年間にわたる共同研究として学校との協働のもとで開発的に実施するという開発的研究アプローチをとった。

4. 研究成果

本研究の成果を、三つのポートフォリオに即してまとめる。

第一に、「高校教職ポートフォリオ」に関する取組の成果として、3年間の学びの履歴を意識した学習成果の継続と集約は、教科と総合とのカリキュラム接続および高大接続カリキュラムの提供によって、教職の高度化に資することを明らかにした。3年間の取組の中で、広島県立庄原格致高等学校および広島県立吉田高等学校との共同研究体制を維持・発展させてきた。広島県立庄原格致高等学校は、2019年度に「医療・教職コース」を新設し、2022年3月に一期生を卒業生として輩出した。同校との共同研究体制のもとで取り組んできたことは、生徒たちのポート

フォリオ作成の導入、教科と総合との接続させた独自カリキュラムの開発、医療・教職コースの生徒に特化した特別カリキュラムの開発、である。本共同研究の研究実施者らは同校を継続的に訪問し、ポートフォリオの継続的収集、カリキュラム開発への指導・助言・共同開発、生徒たちへの出前授業の形式によるカリキュラム開発実践、に取り組んだ。1期生の卒業生が大学に入学し、教職課程をとりながら高等学校時の学びをポートフォリオに即して以下に高めていくのかを継続調査することが今後の課題である。広島県立吉田高等学校は、2019年度に「探究科」を設置し、2022年3月に一期生を輩出した。同校との共同研究体制のもとで取り組んできたことは、生徒たちのポートフォリオ作成の継続、教科と総合との接続させた独自カリキュラムの開発、探究科の生徒に特化した特別カリキュラムの開発、である。本共同研究の研究実施者らは同校を継続的に訪問し、ポートフォリオの継続的収集、カリキュラム開発への指導・助言・共同開発、生徒たちへの出前授業の形式によるカリキュラム開発実践、に取り組んだ。なかでも、特別活動の授業時間をつかって、広島大学の教職課程を履修している学生（2021年度3年生）から高校生に対して大学での教職の学びを紹介させ、「高校教職ポートフォリオ」と「教職ポートフォリオ」との交流を実施することができたことが大きな成果である。探究科一期生が広島大学教育学部に入學しており、その卒業生たちの今後の教職の高度化のプロセス、および同校を訪問した大学生が卒業と教職への入職にあたって、ポートフォリオを軸にいかに関職の高度化を図っていくのかを継続検討することが今後の課題である。

第二に、大学の「教職ポートフォリオ」に関する取組の成果として、自身の「教育観」の形成と刷新を意識したポートフォリオの蓄積とその省察によって、教職の高度化に資することを明らかにした。広島大学の「教職ポートフォリオ」は、「教育観」を軸として、教員養成広大スタンダードの8規準に沿って評価材の蓄積とレベル判定がなされる。その集大成は教職実践演習であるが、本共同研究では幼・小・中・高のすべてを網羅する総合大学としての一貫したポートフォリオを軸とした教職の高度化開発研究を遂行することができた。具体的な評価指標として、教員採用率や教職入職数の増加、教職入職後のキャリア形成といった点ではフォローする調査研究が実施できていないため、これらの点は今後の研究の課題として残されている。

第三に、大学院の「教職教育ポートフォリオ」に関する取組の成果として、自身の「教育観」を意識したプラクティカムの省察と個人個人の教育学研究の課題・テーマと連動させたポートフォリオの作成が、教職の高度化に資することを明らかにした。広島大学大学院人間社会科学研究科教育学プログラムの「教職課程担当教員養成プログラム」では、3年間の博士課程後期の最終年に教職教育ポートフォリオを作成する。その作成過程では、自身が実施したプラクティカム＝大学での教壇実習の経験を振り返るだけではなく、自身の個人研究の課題・テーマとも連動した教師教育担当者としての意味づけが重要な意味を持つ。これらの成果は、具体的な数値やプログラム修了生がどのように自身の教師教育実践を高度化させているのかといったフォロー調査をもとに検証することはできておらず、この点が今後の課題として残されている。

上記三つの取組の成果を踏まえて、学会発表・論文執筆・著書刊行へと本研究の成果を学術的に発信することができた点も本研究の成果である。高校・大学・大学院を通じた教職の高度化をポートフォリオを軸に開発的に取り組むという萌芽的な本研究は、より分野・領域・段階を拡大させた教職の高度化あるいは専門職養成の取組として研究発展させていく必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 10件 / うちオープンアクセス 23件）

1. 著者名 吉田成章	4. 巻 第1巻
2. 論文標題 教育方法学の学問的固有性をいかに教えるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要 教育学研究	6. 最初と最後の頁 184-193頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/50189	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉田成章・松田充・宗近秀夫・二宮諒・阿蘇真早子・藤野健太郎・三戸部由幸	4. 巻 第66巻
2. 論文標題 教科書はどのような「主体的・対話的で深い学び」を求めているか 2018年度検定済み小学校教科書の分析を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国四国教育学会編『教育学研究紀要』（CD-ROM版）	6. 最初と最後の頁 114-125頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 吉田成章・松田充・安藤和久・阿蘇真早子・大西泰誠・金原遼・武島千明・藤原翔・三戸部由幸・澤田百花	4. 巻
2. 論文標題 探究に向かう生徒を育てる教科と総合の課題発見・解決学習推進プロジェクトの意義と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島県立吉田高等学校編『平成30～令和2年度広島県立吉田高等学校「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」報告書』	6. 最初と最後の頁 77-104頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 吉田成章・佐藤雄一郎・安藤和久・阿蘇真早子・金原遼・澤田百花	4. 巻 第18号
2. 論文標題 高等学校における教科と総合をつなげる評価のあり方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島県立日影館高等学校編『研究紀要』	6. 最初と最後の頁 47-50頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章・草原和博・木下博義・松宮奈賀子・川合紀宗・三好美織・小山正孝・影山和也・棚橋健治・川口広美・金鍾成・山元隆春・間瀬茂夫・永田良太・岩田昌太郎・井戸川豊・丸山恭司・三時眞貴子・森田愛子・桑山尚司	4. 巻 第19巻
2. 論文標題 「ポスト・コロナの学校教育」の提起する学術知共創の可能性と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 1-8頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50582	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 金鍾成・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美	4. 巻 第19巻
2. 論文標題 授業研究を軸にした教師教育に関する国際共同研究のプラットフォームづくり	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 33-40頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50586	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 三好美織・鈴木明子・間瀬茂夫	4. 巻 27
2. 論文標題 教師教育における教科連携の試み：大学院「学力・コンピテンシーデザイン基礎研究」の成果と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科附属教育実践総合センター編『学校教育実践学研究』	6. 最初と最後の頁 123-130頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50621	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎茜・米沢崇・大後戸一樹・木下博義	4. 巻 27
2. 論文標題 「学び続ける教員」を育成するアクティブ・ラーニング型教員研修の実践：自主参加研修の事例に関する一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科附属教育実践総合センター編『学校教育実践学研究』	6. 最初と最後の頁 93-99頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50618	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章	4. 巻 68
2. 論文標題 ドイツ・ライブツィヒにおける教員養成改革	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部（教育人間科学関連領域）』	6. 最初と最後の頁 27,36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/48508	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章	4. 巻 86(4)
2. 論文標題 ドイツとの授業の比較検討による日本の授業研究の海外展開の可能性と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本教育学会編『教育学研究』	6. 最初と最後の頁 565,578
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森田愛子、永田良太、米沢崇、松本仁志、竹下俊治、草原和博、間瀬茂夫、齊藤一彦、吉田成章	4. 巻 18
2. 論文標題 ポートフォリオ評価を軸とした教職課程の構造化（2）：実習系科目およびフィールドワーク等による「教育観の形成」の検討と効果検証	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書』	6. 最初と最後の頁 69,78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/48934	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森田愛子、高橋麻衣子	4. 巻 67(1)
2. 論文標題 音声化と内声化が文章の理解や眼球運動に及ぼす影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本教育心理学会編『教育心理学研究』	6. 最初と最後の頁 12,25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5926/jjep.67.12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森田愛子	4. 巻 15
2. 論文標題 他者のためになると思うことは学習行動を促進するか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本協同教育学会編『協同と教育』	6. 最初と最後の頁 23,33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田康之、米沢崇、大和真希子、早坂めぐみ、山口昌子	4. 巻 28
2. 論文標題 規制緩和と「開放制」の構造変容：小学校教員養成を軸に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本教師教育学会編『日本教師教育学会年報』	6. 最初と最後の頁 30,40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹下俊治	4. 巻 26
2. 論文標題 VR技術を用いた理科教材の開発と諸課題の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『学校教育実践学研究』	6. 最初と最後の頁 9,14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤一彦、草原和博、岩田昌太郎、桑山尚司	4. 巻 18
2. 論文標題 日本型教育の海外展開方策モデル創出：広島型教科横断的国際教育協力プラットフォームの構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書』	6. 最初と最後の頁 29,37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/48930	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 濱本想子、大坂遊、草原和博、岩田昌太郎	4. 巻 68
2. 論文標題 A. Swennen とK. Smith の教師教育者の専門性開発論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『広島大学大学院教育学研究科紀要. 第二部, 文化教育開発関連領域』	6. 最初と最後の頁 45,54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/48472	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大坂遊、川口広美、草原和博	4. 巻 26
2. 論文標題 どのように現職教師から教師教育者へ移行するのか : 連続的・漸次的に移行した教師教育者に注目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『学校教育実践学研究』	6. 最初と最後の頁 87,94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/49118	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 間瀬茂夫	4. 巻 27
2. 論文標題 説明的文章の読解指導における「論理」に関する学力像の更新 : 中学校・高校段階を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国語教育論叢』	6. 最初と最後の頁 172,184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤一彦	4. 巻 26
2. 論文標題 Effects of basketball unit in a physical education class on junior high school students' physical fitness	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『学校教育実践学研究,』	6. 最初と最後の頁 37,45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田充	4. 巻 68
2. 論文標題 ドイツにおける実証的な授業研究の今日的動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『広島大学大学院教育学研究科紀要. 第三部, 教育人間科学関連領域』	6. 最初と最後の頁 37,44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto	4. 巻 10(3)
2. 論文標題 Intercultural collaborative lesson study between Japan and Germany	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal for Lesson and Learning Studies	6. 最初と最後の頁 245-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/IJLLS-07-2020-0045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮本勇一・松田充・安藤和久・藤原由佳・阿蘇真早子・金原遼・三戸部由幸・澤田百花・藤井翔太・明月・吉田成章	4. 巻 3
2. 論文標題 授業研究の日独共同比較研究 広島大学教育方法学研究室・ライプツィヒ大学一般教授学講座間の共同研究報告書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科教育方法学研究室編『教育方法学研究室紀要』	6. 最初と最後の頁 33-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto, Kazuhisa Ando, Yuka Fujiwara & Yue Ming	4. 巻 2
2. 論文標題 Characteristics and Challenges of Lesson Study and Lesson Analysis of Learning Group Formation (Gakushu Shudan)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bulletin of the Graduate School of Humanity and Social Sciences. Hiroshima University. Studies in Education	6. 最初と最後の頁 175-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/51626	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章・松田充・宮本勇一・安藤和久・藤原由佳・阿蘇真早子・金原遼・三戸部由幸・澤田百花・藤井翔太・明月・唐曉冬	4. 巻 67
2. 論文標題 教科書は「主体的・対話的で深い学び」をいかに求めているか 2019年度検定済み中学校教科書の分析を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国四国教育学会編『教育学研究紀要』（CD-ROM版）	6. 最初と最後の頁 483-494
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章・滝沢潤・安藤和久・川本吉太郎・橋本拓夢・藤原由佳・金原遼・武島千明・澤田百花・依龍太郎・田芯語・藤井冨佳・馬承昭・明月	4. 巻 19
2. 論文標題 高等学校を軸とした地域における保小中高大連携の可能性と課題 吉舎学区「資質・能力」の実践と吉舎学区学校運営協議会構想の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島県立日彰館高等学校編『研究紀要』	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章・草原和博・木下博義・松宮奈賀子・川合紀宗・三好美織・小山正孝・影山和也・棚橋健治・川口広美・金鍾成・山元隆春・間瀬茂夫・永田良太・岩田昌太郎・井戸川豊・丸山恭司・三時眞貴子・森田愛子・桑山尚司	4. 巻 20
2. 論文標題 「コロナ」から学校教育をリデザインする学術知共創の可能性と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/52067	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 金鍾成・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美	4. 巻 20
2. 論文標題 授業研究を軸にした教師教育に関する国際共同研究のプラットフォームづくり（2）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/52073	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章・滝沢潤・安藤和久・藤原由佳・澤田百花・依龍太郎・曾玉儒・藤井翔太・明月	4. 巻
2. 論文標題 教科における「探究」と総合における「探究」はいかに生きることの「探究」につながるか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島県立吉田高等学校編『令和3年度広島県立吉田高等学校研究紀要』	6. 最初と最後の頁 86-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 宮本勇一・松田充・安藤和久・川本吉太郎・橋本拓夢・藤原由佳・澤田百花・依龍太郎・明月・滝沢潤・吉田成章	4. 巻
2. 論文標題 オンラインを活用した特別活動の授業づくり 「大学を知ろう」企画の代替ではないオンラインと対面を組み合わせさせた体験学習の充実	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島県立吉田高等学校編『令和3年度広島県立吉田高等学校研究紀要』	6. 最初と最後の頁 120-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 齋藤 一彦, 木原 成一郎, 草原 和博, 岩田 昌太郎, 吉田 成章, 船橋 篤彦	4. 巻 20
2. 論文標題 レッスン・スタディを活用したペルーにおける体育教員研修の成果と課題の検証	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 27-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/52070	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齋藤 真宏, 大坂 遊, 渡邊 巧, 草原 和博	4. 巻 28
2. 論文標題 教師教育者の専門性開発としてのself-study (セルフスタディ) : その理論的背景と日本における受容と再構成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 105-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/52350	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 吉田成章
2. 発表標題 教育方法学の学問的固有性をいかに教えるか
3. 学会等名 日本教育方法学会第56回大会課題研究、宮崎大学（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田成章・松田充・宗近秀夫・二宮諒・阿蘇真早子・藤野健太郎・三戸部由幸
2. 発表標題 教科書はどのような「主体的・対話的で深い学び」を求めているか 2018年度検定済み小学校教科書の分析を中心に
3. 学会等名 中国四国教育学会第72回大会自由研究発表「カリキュラム」部会、広島大学（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto, Kazuhisa Ando und Masako Aso
2. 発表標題 Jugyo Kenkyu in Hiroshima: Interprofessionelle Unterrichtsentwicklung, Panel 5: Gemeinsame Grenzen. Perspektiven auf Unterricht aus Hiroshima und Leipzig
3. 学会等名 Jahrestagung der Sektion Interkulturelle und International Vergleichende Erziehungswissenschaft (SIIVE) in der Deutschen Gesellschaft fuer Erziehungswissenschaft (DGfE), TU Dortmund (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nariakira Yoshida, Yasushi Maruyama, Mitsuru Matsuda, Kazuhiro Kusahara, Shigeo Mase, Kazuya Kageyama, Shotaro Iwata, Yuichiro Sato, Miyuki Okamura, Maho Yodozawa, Yuichi Miyamoto, Aiko Hamamoto, Asuka Matsuura, Yu Yamamoto, Seigi Naganuma, Mayumi Kawamura
2. 発表標題 Lesson Study-based Training of Teacher Educator: Case Study on Self-Study and Cooperative Lesson Study
3. 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名	Maria Hallitzky, Christine Kieres, Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto, Asuka Matsuura, Kazuhisa Ando, Serina Sakurai, Yuka Fujiwara, Emi Kinoshita, Christian Herfter, Gereon Eulitz, Johanna Leicht, Karla Spendrin
2. 発表標題	Bridging Gaps between Teachers and Researchers in Interprofessional and Intercultural Lesson Study
3. 学会等名	WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	Aiko Morita
2. 発表標題	Role of the inner voice: The effects of vocalization and subvocalization on text comprehension and eye movements
3. 学会等名	認知心理学会第17回大会国際交流委員会企画シンポジウムNarrative Experience: Cognitive and Emotional Influences on Text Comprehension (招待講演)
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	吉田成章・松田充・宮本勇一・安藤和久・藤原由佳・阿蘇真早子・金原遼・三戸部由幸・澤田百花・藤井翔太・明月・唐曉冬
2. 発表標題	教科書は「主体的・対話的で深い学び」をいかに求めているか 2019年度検定済み中学校教科書の分析を中心に
3. 学会等名	中国四国教育学会第73回大会自由研究発表「カリキュラム」部会、山口大学(オンライン)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	Nariakira Yoshida
2. 発表標題	From School-based Lesson Study to Lesson Study-based School Community: or From Teacher Educator to Community-based Curriculum Designer
3. 学会等名	WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2021, Symposium "Teacher Educators' Involvements in School-based Lesson Study: A Case of Japan", Macau and Hongkong (Online) (国際学会)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名 Yuichi Miyamoto, Yuka Fujiwara, Kazuhisa Ando, Masako Aso, Yue Ming, Mitsuru Matsuda, Nariakira Yoshida
2. 発表標題 The Landscape of Researches on Lesson Study: An attempt to develop online research database of LS
3. 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2021, Symposium “Teacher Educators’ Involvements in School-based Lesson Study: A Case of Japan”, Macau and Hongkong (Online)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 深澤広明、吉田成章	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 192
3. 書名 学習集団づくりが育てる「学びに向かう力」 授業づくりと学級づくりの一体的改革	

1. 著者名 広島大学教育ヴィジョン研究センター 草原和博・吉田成章編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 182
3. 書名 ポスト・コロナの学校教育 教育者の応答と未来デザイン	

1. 著者名 広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座、永田良太	4. 発行年 2019年
2. 出版社 凡人社	5. 総ページ数 132
3. 書名 日本語教育へのいざない 「日本語を教える」ということ	

1. 著者名 Jongsung Kim, Nariakira Yoshida, Shotaro Iwata, & Hiromi Kawaguchi (Ed.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 240
3. 書名 Lesson Study-based Teacher Education: The Potential of the Japanese Approach in Global Settings	

1. 著者名 広島大学教育ビジョン研究センター 草原和博・吉田成章編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 151
3. 書名 「コロナ」から学校教育をリデザインする 公教育としての学校を捉える視点	

1. 著者名 樋口直宏・吉田成章編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 211
3. 書名 教育方法と技術・教育課程	

1. 著者名 Maria Hallitzky, Christine Kieres, Emi Kinoshita, Nariakira Yoshida (Hrsg.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Klinkhardt	5. 総ページ数 138
3. 書名 Unterrichtsforschung und Unterrichtspraxis im Gespr�ach: Interkulturelle und interprofessionelle Perspektiven auf eine Unterrichtsstunde	

1. 著者名 藤田晃之・森田愛子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 223
3. 書名 特別活動・生徒指導・キャリア教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森田 愛子 (Morita Aiko) (20403909)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	米沢 崇 (Yonezawa Takashi) (20569222)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	松本 仁志 (Matsumoto Hitoshi) (40274039)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	永田 良太 (Nagata Ryota) (10363003)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	松田 充 (Matsuda Mitsuru) (80845991)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・助教 (15401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	草原 和博 (Kusahara Kazuhiro) (40294269)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	齊藤 一彦 (Saito Kazuhiko) (60413845)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	竹下 俊治 (Takeshita Shunji) (90236456)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	間瀬 茂夫 (Mase Shigeo) (90274274)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関